

社会福祉系学会連合ニュース (2019年3月号)

1. ご挨拶

木原 活信(日本社会福祉系学会連合会長)

このところ、児童虐待など多くの悲惨な事件が連日報道されて心痛めているところです。さて日本社会福祉系学会連合は2006年に設立し、今年で13年目を迎えることとなりました。これまでの主な活動は、①日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会への協力、②日本の社会福祉系学会の活性化、交流と連携、③研究条件向上のための社会的活動です。

その働きの一貫として、先日、「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について」と題する日本学術会議公開シンポジウムの開催に協力することができました。そこでは、孤独について、その権威でイギリスの専門家であるジャネット・ウォーカー(Janet Walker)教授から、「孤独担当大臣」(Minister for Loneliness)を新設して話題になっているイギリスの実情をお聞きしました。国家政策ではじまったイギリスの孤独対策について実際の取り組みと学術的評価についてお伺いしました。今回話を聞くまで「孤独大臣」という名称に、「失笑」していた一人でしたが、なぜ国家をあげてそこまでせざるを得なかったのかについて知ることができ、考えを改めさせられました。日本側からは、前厚生労働副大臣の高木美智代衆議院議員、地域ソーシャルワーカーの勝部麗子氏(豊中社会福祉協議会)、奥田知志牧師(NPO法人抱樸理事長)が、社会的孤立と「孤独」についての諸相と諸施策について報告されました。

ウォーカー教授によれば、孤独といっても、その定義は、孤立(isolation)が集団に排除された客観的状态を指すのに対して、孤独(loneliness)はそれを経験として味わう主観的側面であるとされていました。とりわけ今回の議論の中心となったのは、主観的な経験である孤独のほうでしたが、およそ900万人と推定される孤独が深刻な社会問題となっているイギリスの事情がよくわかりました。しかし日本はそれよりもっと孤独な度合いが深刻であり、OECD諸国のなかでもっとも孤独な国でありながら、その対策が遅れていることも日本側から指摘されました。日本で近年話題になっている無縁死、孤独死、引きこもりなどの問題の背後には、ここという社会的孤立、孤独があるという指摘は、説得力がありました。これを機に、孤独ということから社会福祉学全体を見直していく必要があるようにも感じました。

そのような意味で、この学会連合においても、孤独問題や災害などを含めた社会問題の背後にある共通論題について、加盟学会相互の意思疎通を高めるべく情報交換をもっと密にし、今年度の諸活動に取り組んで行きたいと思えます。なにとぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

2. 日本学術会議公開シンポジウム報告(2019年1月14日開催/共催)

「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について」

渡辺 裕一(日本社会福祉系学会連合 運営委員)

本公開シンポジウムは、平成30年9月に日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会より発出された提言「社会的つながりが弱い人への支援のあり方についてー社会福祉学の視点からー」をもとに、国民及び関係者に対してこの問題の重要性を喚起することを目的としている。

はじめに、岩崎晋也氏(日本学術会議会員・社会福祉学分科会委員長)から「社会的つながりが弱い人への支援のあり方についてー社会福祉学の視点からー」の説明があった。提言内容を踏まえ、政府や自治体の責任が不明確で、地域の助け合い支え合いには限界があることから、本提言を新たな政策を求めるものと位置づけ、具体的なあり方を述べた。

ジャネット・ウォーカー氏(リンカーン大学・イギリス)の講演「『現代の流行病』孤独に立ち向かう～イギリスの経験～」では、はじめにイギリスの全国的な文脈から、2010年に開始された「孤独廃絶のためのキャンペーン」を紹介した。孤

独の問題を解決するためには、まずトップが動かなければならず、また、孤独の問題を解決するためにはすべての人が立ち上がらなければならないなど、いくつかの委員会等の報告から、孤独担当相が新設された経緯を説明された。

イギリスでの孤独と孤立の定義から、孤立は放置すると孤独の感情につながることやそれぞれの定義を明確に分け、異なる対応をしていくことの必要性を述べ、孤立・孤独に関する現状や身体・心理・社会的面への影響、実際に行われているたくさんの方策をお示しいただいた。

シンポジウムでは、はじめに勝部麗子氏(豊中市社会福祉協議会福祉推進室長)から、社会福祉協議会のソーシャルワーカーとして孤立・孤独にかかわる立場からの発題があった。地域共生社会は旧来の「向こう三軒両隣」が素晴らしかったという捉え方ではなく、新たなステージととらえるべきとして、「一人も取りこぼさない」「排除から包摂へ」「支えられた人が支える人にかわっていく」「すべての人に居場所と役割」の4つをその考え方として掲げた。そのために実際に取り組んでいることとして、「制度の狭間から地域づくりをする」「住民と協働するワーカー(住民にやらせるということではない)」「ライフセーフティネットの仕組み」「プロジェクト会議(出口づくり)」を挙げ、地域の人が地域で起きていることを知っていくべきだという指摘があった。

世帯が小さくなり、旧来の自治会も相当力を失ってきている中で、「地域家族」という形で、どうやって孤立・孤独の問題への対応を進めていくのかについて、小学校区単位にボランティアな組織を作っていくことを提案された。「自分だけの見守り協力員」、「安心コール」、「見守りローラー作戦」、「マンションサミット」、「豊中めぐり」、「子どもの居場所ネットワーク」など、具体的な取り組みの事例と成果、エピソードを紹介し、地域の中に、住民と協働してすべての人に居場所と役割をつくることの大切さを訴えた。

続いて、居住支援の立場から奥田知志氏(NPO法人抱樸理事長)の発題があった。ハウジングファーストで取り組んできたが、自立してもゴミ屋敷になった経験から、ここに社会的孤立の問題があると気づき、「ハウスレス」と「ホームレス」を使い分ける必要性を述べた。家があっても自分の最期は誰が看取ってくれるのか、という話から、これらを1セットに支援を考えるべきで、「ハウスレス」と「ホームレス」の連鎖を指摘した。

続けて、価値の転換をしていく必要性を訴えた。支援を受けるだけでは自己有用感を感じることができない。ホームレス経験を語り、「生きてさえいればいつか笑える日が来る」と伝える活動など、活動の機会を得て、自分自身の力が役立つ経験をすれば、「野宿生活は無駄ではなかった」ととらえられ、自己有用感を高めることができると指摘した。

以上から、支援論を問題解決型から伴走型の支援に転換することを訴えた。大事なのは失敗を続けながらもつながっていることで、生きているという価値をベースに伴走型支援が求められ、その上に問題解決型の支援が必要だと述べた。ポストモダンの時代、もともとあったものの順番を入れ替えたり、とらえなおしたりすることで再構築していくべきで、「家族を取り戻す」ではなく、「新しい家族像をつくる」という転換が必要だが、それを妨げているのは専門職の人たちだと指摘、伴走を目的とする支援論ができない限り効果が出ないと話した。

最後に、地域共生社会に向けた政策づくり・政治の立場から、高木美智代氏(前厚生労働副大臣・衆議院議員)の発題があった。他の発題者の話を受けて、政治はどう対応していくのが問われているとした。地域共生社会は高齢者の話ではなくすべての人に地域包括ケアを構築していくことであり、社会の変化に対してすべての人が孤立せずに暮らし続けることができる社会をどう実現していくかをもとに、生活保障のイメージをつくっていく必要があると述べた。社会で排除される人々を包摂する役割を創り出すことが必要で、人が生きていくための体制をつくる共同体の機能をより一層高め、排除される本人をもう一度社会につなぎなおしていく仕組みを行政の責任で作っていくべきとした。

いろいろな社会活動の資源を使いながら取り組むと、地域にリソースを確保することにつながってくるが、最初から、「リソースづくり」という話にはならない、それぞれが好きなことをしていることや住民の学びが広がることで福祉が機能していくとし、行政はそのコミュニティがしやすい環境をつくり、排除されやすい人をもう一度つなげていく、そしてそれが、セーフティネットになっていくと述べた。

地方分権の中で都道府県行政の機能をいかに高めていくか、今後どのようにして社会的孤立のようなテーマを展開していけばいいか、どのように日本全体で取り組めばいいか、また一つずつ提言をいただきたいとした。

続くディスカッションでは、奥田氏は福祉という言葉をやめて、概念を転換することが必要で、最も大切なのは「居住」であると述べた。続けて勝部氏は、社会福祉士のあり方に言及した。社会福祉士がソーシャルワーカーとして社会を変えていくという期待値があるにもかかわらず、カリキュラムにより制度の中に押し込まれていることの問題を指摘、しっかりソーシャルワークの技術の中に地域づくりにかかわる内容を位置づけるようカリキュラム改革への期待を述べた。高木氏は、社会福祉士の専門性に関する認知度が低いという問題を指摘、社会福祉学分会に政策提言を期待した。また、社会福祉士の認知度を高め、信頼を得るべきで、政策的な働きかけ、政治的な働きかけを含め、一緒に取

り組みたいとした。

最後に、コメンテーターのジャネット・ウォーカー氏からは、イギリスと日本には共通点がある一方でそれぞれの国に特有の文化や社会性があり、それに基づいてプログラムを作っていくという視点が必要という指摘がなされた。すべての人が居場所を持ち、社会で輝くべきであり、そのためのつながりは意識的につくっていくものと認識すべきであるとし、地域社会の中にはリーダーや住民がいるがみんながつながること、地域社会が持つ強みや資産に焦点を当てること、すべてのレベル（政治レベル、ソーシャルワーカーレベルなど）が統合化されたアプローチをしていくことが大切だと述べた。岩崎氏は、提言を出すにあたっての危機意識を述べ、その課題への対応の必要性を訴えた。同時に、シンポジウムを経て、もっと良い社会にするために、もっといろいろなことができると、希望をもって学んだと述べた。

3. 加盟学会の2019年度学術大会日程

本連合では、加盟学会の2019年の学術大会等の情報を集約し、各学会の日程の設定がスムーズに行われるとともに、会員の方々が計画的に学術集会等に参加できるよう努めています。学術大会等の最新情報は加盟学会より情報をいただき次第、本連合のHPに掲載いたします。以下に日程の概要をお知らせいたします。

学会名	大会情報
社会事業史学会	社会事業史学会第47回大会 大会日程:2019年5月11日(土)-12日(日) 開催場所:北星学園大学(北海道) テーマ:「辺境」における社会事業史の再定位
日本医療社会福祉学会	第29回日本医療社会福祉学会大会 大会日程:2019年8月31日(土)-9月1日(日) 開催場所:聖路加国際大学 日野原ホール テーマ:地域包括ケアの激流の中で 個を守りぬく
日本介護福祉学会	第27回日本介護福祉学会大会 大会日程:2019年8月31日(土)-9月1日(日) 開催場所(開催校・開催地):静岡県立大学短期大学部 テーマ:「介護福祉実践におけるチームを問う(仮)」
日本家族療法学会	第36回北海道大会 大会日程:2019年6月28日(金)-6月30日(土) 開催会場:北星学園大学(北海道) テーマ:We Can Do ～関係と変化を生み出す基本を学ぼう
日本看護福祉学会	第32回 日本看護福祉学会学術大会 大会日程:2019年7月20日(土)-21日(日) 開催場所:福岡大学・福岡市 テーマ:尊厳と権利を尊重する看護福祉 —誰もが自分らしく生きることのできる社会の創出—
日本キリスト教社会福祉学会	日本キリスト教社会福祉学会 第60回大会 大会日程:2019年6月28日(金)-6月29日(土) 開催場所:聖隷クリストファー大学(静岡県) テーマ:神と隣人に仕える —地域共生社会形成におけるキリスト教社会福祉の役割—

日本子ども家庭福祉学会	<p>第 20 回 日本子ども家庭福祉学会全国大会 大会日程:2019年6月1日(土)-2日(日) 開催場所:立命館大学(京都府) テーマ:「育ちと巣立ち」―「貧困」の中で育つ子どもの自立支援</p>
日本在宅ケア学会	<p>第 24 回日本在宅ケア学会学術集会 大会日程:2019年7月27日(土)-28日(日) 開催場所:仙台国際センター(宮城県) テーマ:いのちと暮らしを支える在宅ケアのパイオニア・スピリット</p>
日本社会福祉学会	<p>日本社会福祉学会第 67 回春季大会 大会日程:2019年5月26日(日) 開催場所:東洋大学白山キャンパス(東京都) テーマ:ソーシャルワークの価値再考 ―「個人の尊厳」の根拠をどこに求めるか―</p>
	<p>日本社会福祉学会第 67 回秋季大会 大会日程:2019年9月21日(土)-22日(日) 開催場所:大分大学旦野原キャンパス(大分県) テーマ:共生社会の構築に向けて～自立と多様性の共存</p>
日本司法福祉学会	<p>日本司法福祉学会第 20 回全国大会 大会日程:2019年8月24日(土)-25日(日) 開催場所:鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパス(三重県) テーマ:未定</p>
日本社会福祉教育学会	<p>日本社会福祉教育学会第 15 回大会 大会日程:2019年10月上旬 開催場所:青森県立保健大学(青森県) テーマ:未定</p>
日本社会分析学会	<p>日本社会分析学会 HP をご確認ください→ http://jsasa.org/index.cgi</p>
日本職業リハビリテーション学会	<p>日本職業リハビリテーション学会第 47 回大阪大会 大会日程:2019年8月23日(金)-8月24日(土) 開催場所:大阪府(予定) テーマ:人を活かす企業文化の在り方を考える ～これからの定着支援の連携を創り出す～</p>
日本精神障害者リハビリテーション学会	<p>日本精神障害者リハビリテーション学会第 27 回大阪大会 大会日程:2019年11月22日(金)-24日(日) 開催場所:関西大学千里山キャンパス テーマ:笑てんかりハビリテーション ～たくさん笑顔を咲かせるために～</p>
日本ソーシャルワーク学会	<p>日本ソーシャルワーク学会 第 36 回大会 大会日程:2019年7月27日(土)-28日(日) 開催会場:淑徳大学千葉キャンパス テーマ:ソーシャルワークの理念と実践を改めて問う ―共生と自律の視点から―</p>
日本地域福祉学会	<p>日本地域福祉学会第 33 回大会(岡山・倉敷大会) 大会日程:2019年6月8日(土)-9日(日) 開催場所:川崎医療福祉大学(岡山県) テーマ:地域のちから 福祉のあした～制度の狭間に挑む地域福祉実践～</p>

日本福祉介護情報学会	日本福祉介護情報学会 HP をご確認ください→ http://jissi.jp/
日本福祉教育・ボランティア学習学会	日本福祉教育・ボランティア学習学会 第 25 回全国大会 大会日程:2019 年 11 月 23 日(土)-24 日(日) 開催場所:北星学園大学(北海道札幌市厚別区) テーマ:未定
日本福祉文化学会	日本福祉文化学会 HP をご確認ください → http://www.fukushibunka.net/index.html
日本仏教社会福祉学会	日本仏教社会福祉学会第 54 回学術大会 大会日程:2019 年 9 月 10 日(火)-11 日(水) 開催会場:浅草寺福祉会館(東京都) テーマ:寺院による福祉活動(仮)
日本保育ソーシャルワーク学会	日本保育ソーシャルワーク学会第 6 回研究みえ大会 大会日程:2019 年 9 月 14 日(土)-15 日(日)開催予定 開催場所:皇學館大学(三重県) テーマ:地域共生社会における保育ソーシャルワークの可能性(副題:未定)
日本保健福祉学会	日本保健福祉学会 HP をご確認ください → http://hwelfare.umin.jp/

4. 加盟学会紹介(日本保育ソーシャルワーク学会)

社会福祉系学会連合には、現在 22 の関連学会が加盟しています。今回は、2018 年 5 月 27 日から新たに加盟した日本保育ソーシャルワーク学会について紹介させていただきます。

●日本保育ソーシャルワーク学会● <https://jarccre.jimdo.com/>

香崎 智郁代(日本保育ソーシャルワーク学会)

本学会は、設立準備委員会メンバーを中心に、九州は熊本の地で 2013 年 11 月に発足しました。「保育ソーシャルワーク」とは、子どもの最善の利益の尊重を前提に、子どもと家庭の幸福(ウェルビーイング)の実現に向けて、保育とソーシャルワークの学際的領域における新たな理論と実践としてとらえられています。しかし、そのシェーマ(定義、内容、方法等)やシステムについて、いまだ確定したものが構築されるには至っていないのが実情です。そこで、保育学研究における専門学会として、保育ソーシャルワークに関する研究及び交流を積極的に図り、子どもと家庭の幸福の実現に貢献することをめざして学会活動を行っています。

具体的には、年に 1 回開催している全国大会、学会紀要「保育ソーシャルワーク学研究」や年に 2 回の学会ニュースを発行し、保育ソーシャルワークの普及に力を入れています。特に 2016 年からは、保育ソーシャルワーク実践の専門的かつ中心的な担い手を養成していくことを目的として、学会認定資格「保育ソーシャルワーカー」制度を立ちあげ、「初級・中級保育ソーシャルワーカー」養成研修を実施しています。また、2018 年 12 月には「保育ソーシャルワーク研究叢書」(全 3 巻)も刊行しました。

現在、会員数は 170 名ほどであり、まだ小規模の学会ではありますが、会員の所属は大学などの教育・研究機関だけでなく、保育や社会福祉を学ぶ学生、保育所、子育て支援センター、児童発達支援放課後等デイサービス、各市町村の行政職員など多岐にわたっています。今後も、子どもと家庭の幸福(ウェルビーイング)に寄与できるよう、学会活動の充実を図っていきます。

5. 補助金制度について

2017年度に創設された補助金制度を2019年度も実施いたします。現在募集をしておりますので、詳細につきましては日本社会福祉系学会連合 HP の下記ページをご覧ください。

→ <http://jaswas.wdc-jp.com/about/subsidy.html>

6. 加盟学会一覧

社会事業史学会 日本医療社会福祉学会 日本介護福祉学会 日本家族療法学会
日本看護福祉学会 日本キリスト教社会福祉学会 日本子ども家庭福祉学会
日本在宅ケア学会 日本司法福祉学会 日本社会福祉学会 日本社会福祉教育学会
日本社会分析学会 日本職業リハビリテーション学会 日本精神障害者リハビリテーション学会
日本ソーシャルワーク学会 日本地域福祉学会 日本福祉介護情報学会
日本福祉教育・ボランティア学習学会 日本福祉文化学会 日本仏教社会福祉学会
日本保育ソーシャルワーク学会 日本保健福祉学会

日本社会福祉系学会連合事務局
日本社会福祉学会事務局内
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5
アカデミーセンター

TEL:03(6824)9385 FAX:03(5227)8631

※2018/11/26 より電話・FAX 番号が変更になりました。

Mail: union-jssw@kokusaibunken.jp

<http://jaswas.wdc-jp.com>